

各位

会社名 株式会社フレクト  
 代表者名 代表取締役CEO 黒川 幸治  
 (コード番号: 4414 東証グロース)  
 問い合わせ先 執行役員ファイナンス 河田 紘史  
 & アカウンティング本部長CFO  
 TEL. 03-5159-2090

**2026年3月期決算 高い関心が想定される事項**

2026年3月期決算について、投資家の皆様の高い関心が想定される事項を、以下のとおり記載いたしました。

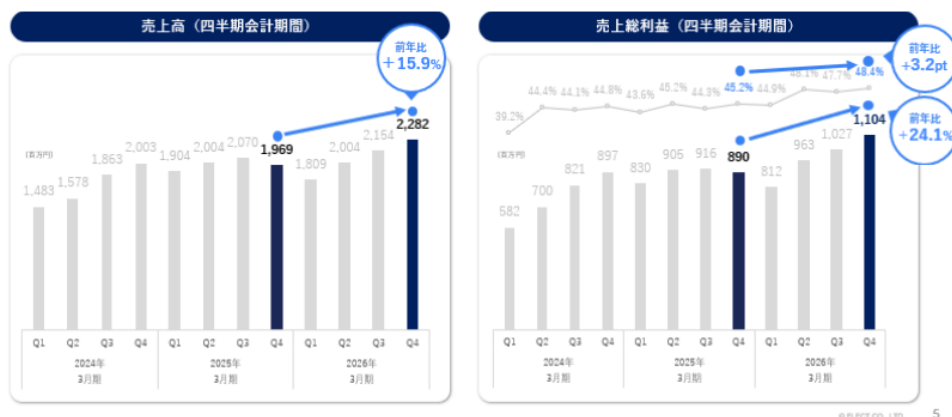
**Q1. 2026年3月期第4四半期会計期間の業績に対する見方**

**A1. 過去最高の売上高及び営業利益を達成。第1四半期以降、継続的に売上伸長（決算説明資料 P. 5、6）**

2026年3月期第4四半期会計期間の売上高は、提案活動を強化したことで一部の既存顧客との取引拡大に繋がり、2,282百万円（前年同期比+15.9%）と過去最高となりました。また、オペレーションの徹底による健全なプロジェクト運営及びエンジニアのアサイン最適化、社内AIの活用により、売上総利益率は48.4%（前年同期比+3.2pt）と高水準を実現し、営業利益においても452百万円（前年同期比+45.7%）と過去最高を達成しました。2026年3月期第2四半期以降、3四半期連続で四半期売上高の増加を実現しました。

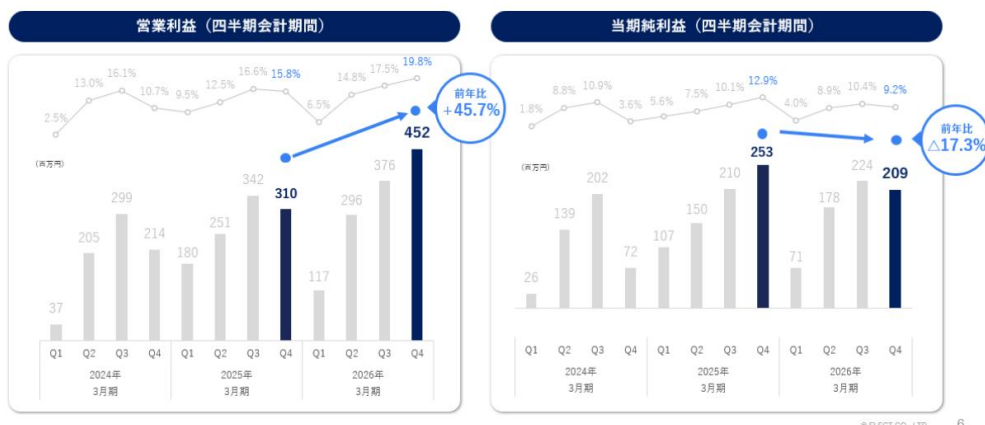
**(2026年3月期-第4四半期) 業績推移**

提案活動の強化により、売上高は2,282百万円（前年同期比+15.9%）と過去最高の4Q会計期間売上高となりました。また、オペレーションの徹底による健全なプロジェクト運営とエンジニアアサインの最適化、社内AIの活用により売上総利益率は48.4%（前年同期比+3.2pt）と高水準を実現しました。売上総利益額は1,104百万円（前年同期比+24.1%）と過去最高となりました。



**(2026年3月期-第4四半期) 業績推移**

売上総利益が増加したことにより、営業利益は452百万円（前年同期比+45.7%）と過去最高となりました。当期純利益は、一過性の特別損失として関係会社株式評価損を102百万円計上した影響により、209百万円（前年同期比△17.3%）となりました。



## Q2. 2027年3月期業績の見通しについて

### A2. 2027年3月期においてもAIを中心としたDX支援の需要は力強く推移するものと想定（決算説明資料P.9）

2027年3月期においてもAIを中心としたDX支援の需要は力強く推移するものと想定しており、当社においては、売上高104億円を計画しました。一方、将来の持続的成長を企図した、人材やAI活用、IDパッケージ事業等の投資を拡大させることで、営業利益は前年比で微増を計画しています。

具体的な取り組みとしては、データ連携、ID統合及びデータ統合プラットフォームの構築にAIを加えたトータルサービスを強化してまいります。

あらゆるシステムを繋げるデータ連携プラットフォーム「MuleSoft」「Informatica」、データを一元管理するデータ基盤「Data 360」「Databricks」、ID認証基盤のAuth0に加えて、Salesforceプラットフォームを活用したコンタクトセンターサービス、コミュニティサービス、ECサービス、マーケティングサービス等、アプリケーション開発の全てにおいてAgentforce等のマルチAIを実装し、管理することで、AIエージェントのPoC（概念実証）で終わらない本番活用とその後の運用拡大を推進し、成果の最大化を実現していきます。

また、Okta, Inc.（本社：米国）が提供する認証基盤サービス「Auth0」に機能強化及び標準化したID基盤導入パッケージの事業展開も行います。

日本を代表する各業界の大手企業を顧客基盤として、中央官庁や地方自治体等の公共領域を継続して開拓するとともに、新たに金融業界にも進出してまいります。

事業成長に向けて、旺盛な需要に応える開発体制の増強が必要不可欠であるため、採用・教育費及び人員増加による人件費増等の積極的な人材投資を見込んでおります。なお、2026年4月の新卒入社は、理系院卒を中心に40人となります。

更には当社のプロジェクト業務及び社内業務においてAIを全社活用し、業務効率化・生産性向上を推進していきます。

#### （2027年3月期-通期）業績予想

27年3月期の売上高は10,400百万円（前年同期比+26.0%）、売上総利益は4,874百万円（前年同期比+24.7%）、営業利益は1,247百万円（前年同期比+0.3%）、当期純利益は751百万円（前年同期比+9.8%）を見込んでいます。AIを中心としたDX支援の需要は力強く推移するものと想定しており、従前目指していた100億円以上の売上高を計画しています。持続的な成長に向けた、人材やAI活用、IDパッケージ事業投資の拡大に伴う販管費の増加により、営業利益は前年比で微増となります。

	2026年3月期 通期	2027年3月期 通期 (予想)	期初予想対比	
			増減額	増減率
売上高	8,251	10,400	+2,148	+26.0%
売上総利益	3,908	4,874	+966	+24.7%
(%)	47.4%	46.9%	△0.5pt	
販管費	2,664	3,626	+962	+36.1%
(%)	32.3%	34.9%	+2.6pt	
営業利益	1,244	1,247	+3	+0.3%
(%)	15.1%	12.0%	△3.1pt	
当期純利益	684	751	+66	+9.8%
(%)	8.3%	7.2%	△1.1pt	

©FLECT CO., LTD. 9

以上